

お客様とともに“種”を植え、
二人らしい、唯一無二の“花”を咲かせる

「MUKU」がどのようなスタンス、心構えで空間演出に携わっているのか…。今回は、MUKU by Massa & Artistsを代表して、3人のアーティストに話を聞いた。

— お花で結婚式を彩っていくのが、皆さんのお仕事ですね。お花を扱ううえで、日々どんなことを大切にされていますか？

田口：「花本来の美しさや、もともと持っている生命力を活かすことを最も大切にしています。自分が手を加えることで、花をより生き活きと表現してあげたいと思いがちで、常に触れていますね」

吉野：「花との出会いは、運命だと思っています。ですから、自分の手元に来てくれたお花たちは、しっかりと美しい状態にしてあげたい。そんな気持ちで、日々お花に接するように心がけています」

林：「一度、花の顔を見る」という行動が、僕の場合は体に染み付いています。花に挨拶をする感覚です。手に取って花の温かみを感じてから、そのときの環境や空気感、自分の感情と重ね合わせ、活けるようにしています」



左：田口修平
中央：吉野絵美
右：林英明

— お互いの作品については、どんな印象をお持ちですか？

田口：「林さんは、常に会場のスケールを念頭に置いてから造形を組み合わせている印象があります」

吉野：「そうですね。それでいて、できあがるものが本当にエレガント！林さんは表現の仕方自体はすごく男らしいのですが、“ウェディング”とかけ合わせると、パキッとしたりメリハリのある美しさが生まれるんです。男性らしさと女性らしさのバランスが絶妙だと思います」

林：「へえ、そんなふうに思っているんだね。光栄です(笑)」

田口：「吉野さんは、女性らしい感性が光っています。花がジュエリーのようにキラキラと輝いているときがあり、まるで美しい装飾品のように見えるときがある」

吉野：「田口さんは、茎や枝のラインを捉えるのが本当に上手いです。会場全体を見たときに、それぞれのラインがどんな効果を生むのか…ということも、感覚的にわかっている気がします」

林：「二人の作品には想いが強く反映されていて、二人らしい輝きを感じますね。田口くんとはかくダイナミック。自由な発想で、大胆に空間をデザインします。田口くんも言っていたように、吉野さんの作品には、花を通じて繊細な女性らしさがよく出ています」

— 新郎新婦のストーリーからデザインのイメージを膨らませるのが「MUKU」流とお聞きしましたが、通常どのような流れで、準備を進めていくのですか？

吉野：「1カップルに対して一人のアーティストが担当し、二人のこれまでのストーリーを聞かせていただくことに、多くの時間を費やします」

林：「“MUKU”にはさまざまなタイプのアーティストが所属しているので、お客様のニーズや相性に合わせて担当者を決定させていただきます。もちろん、お客様からのご指名も承っております」

— 打ち合わせでは、どんなことをお話しされるのですか？

林：「どこで出会ったのですか？、“趣味は？”、“どんなところを旅行しましたか？”など、雑談のような話を重ねていきながら、お二人にまつわるキーワードを集めていきます。それらをデザインに落とし込んで、花やアイテム、色を決定していき、お二人ならではのデコレーションを完成させていく感じです」



吉野：「お二人にとって何が一番重要なキーワードなのかを、しっかりと把握することが大切です。式当日、出席された皆様に“会場の演出が二人らしいね”と言っていただけるものが作れるように、日々心がけています」

— ずばり、「MUKU」の一番の魅力は、どんなところでしょう？

田口：「何もない、ゼロの状態から、オリジナリティあふれるデザインをお客様と一緒に作り上げるところだと思います。僕の中で“MUKU”は、“何も入っていない器”のようなイメージ。お客様とお話しを重ねていくうちに何も入っていない器に土が植えられ、ストーリーのキーワードが種となって蒔かれて、二人だけの花が咲いてゆく…そんな感覚です」

林：「そうですね。お花って、ここぞという勝負の日には必ず存在するものです。唯一無二の“お二人らしさ”を、お客様と一丸となってお花で創り上げていくのが、“MUKU”ならではの魅力だと考えています」

— パレスホテルでウェディングを検討されているお客様へ、メッセージをお願いします。

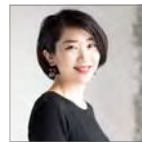
林：「結婚式は、“お二人と一緒に何かを始める”…ということの第一歩。ですから、前提として、式創りを楽しんでいただきたいと思います。ご新郎ご新婦お二人の未来がより明るく、楽しい毎日になるように、私たちがお手伝いさせていただけたらうれしいです」



林英明
(はやし ひであき)
MUKU
エグゼクティブディレクター



田口修平
(たぐち しゅうへい)
MUKU
アーティスト



吉野絵美
(よしの えみ)
MUKU
アーティスト



VOL.002

THE LATEST MUKU

永遠を結ぶ大切な一日。“MUKU”は、その晴れの日を、唯一無二の空間に彩ることで祝福する。ふたりのストーリー、想い、未来のビジョン、すべてをフラワーアートでつむぎ、無色透明のステージに生命を吹き込む。“無”からふたりだけの“有”を創造る……MUKU by Massa & Artistsのマインドを持つアーティストを代表し、3人をフォーカスした。

Hideaki Hayashi

オランダ、ベルギーにてフラワーデザインを学ぶ。老舗フローリストの経験を経て現職に就任。ウェディング、ハイブランドのフラワーデコレーション、ディスプレイを数多く手がける。その世界観は繊細かつクリエイティビティに溢れる作風で人気を博する。Massa&Artistsを代表するアーティスト。



Shuhei Taguchi

料理人を目指し修行している中、空間デザインすることに興味を持ち、独学で花を学ぶ。2013年、老舗花店に入社。のちにMassa&Artistsに入社。パレスホテル東京を拠点にウェディング、イベントデコレーションなど幅広く手掛ける。花本来の美しさを生かすことを信念とし提案し続ける。



Emi Yoshino

ガーデン、リゾートウェディングを経験後、パリのエスプリを得るため渡仏・短期留学を経てMassa&Artistsに所属。女性の夢や憧れを女性らしい世界観で表現するアーティスト。

